

## 奄美の古典織物技法による帯地の開発

企画支援部奄美市駐在 ○平田清和, 恵川美智子\*

(元 \*企画支援部 奄美市駐在)

### 1. はじめに

全国の主な和装織物産地では、着尺のみならず帯・小物など関連の商品展開を行っているが、大島紬産地は着尺主体であるので、産地の活性化のためには和装全般につながる商品のバリエーションを整えることが求められている。和装業界の厳しい状況下、新しい提案により需要を掘り起こすことが出来ると実践している企業もあり、サポートを行うことが必要である。

本研究では、着物とセットで用いられる帯地に着目し、伝統技法の紋柄（織りで模様を表わす）と大島紬の製造技術を組み合わせ、特徴ある帯地開発によりストーリーのある新商品提案を目指した。基本的なコンセプトは従来の大島紬用手織機でも展開が可能なこととし、製織法の検討を行った。従来の大島紬用糸を活用し、帯地用薄地から厚地織素材について試作を行ったので報告する。

### 2. 研究概要

#### 2. 1 織物設計・・・帯地用織物の検討

帯地の場合、しっかりとした形を保持するため、織密度を上げたり、経糸や緯糸に太番手の糸を用いたり、合糸本数を増やしたりして太い糸として織り上げていく方法が考えられるが、今回は、大島紬の定番絹糸を用いて合糸本数を変化させていく引揃糸による方法と、経糸の綜統・箆への配列方法を変化させる2つの方法による帯地織物を試作することとした。

使用箆密度：15.5算(640羽)、経糸総本数：1,280本

経糸：8.2匁付(30g付) 練り絹糸(泥染め)

緯糸：10.5匁付(40g付) 練り絹糸(未染色)

経糸配列条件は次の3パターン（綜統2枚使用）とした。

α：綜統通し（綜統1・綜統2・綜統1・綜統2） 箆通し（2本/羽）；通常パターン

β：綜統通し（綜統1・綜統1・綜統2・綜統2） 箆通し（2本/羽）；変化パターン

γ：綜統通し（綜統1×4回・綜統2×4回連続） 箆通し（4本/羽・1羽空き）；同上

緯糸織り込み条件は次の3グループとした。

A：同一糸の連続織（1本織込、引揃糸15種類：2本～16本）

織杼1本使用：16種類

B：1本織込と引揃糸との交互織込（引揃糸15種類）

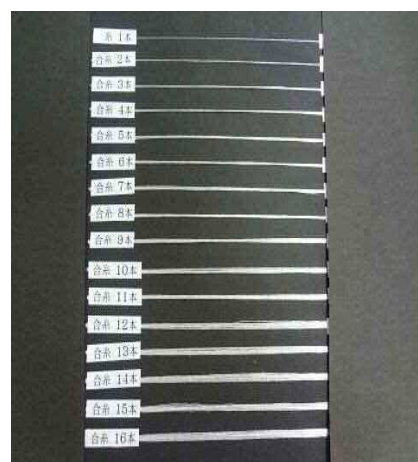
織杼2本使用：15種類

C：偶数本織込と引揃糸との交互織込

（偶数糸7種類：2本～14本）織杼2本使用：56種類

計 87種類

試作では経糸配列3パターンと緯糸織込3グループの87種類を組合せて、合計261種類の平織見本を織り上げて、拡大撮影及び物性比較を行った（図1）。



（練り絹糸1本～合糸16本）

図1 使用した緯糸

## 2. 2 物性試験

試作した織物の物性を恒温恒湿室で測定した。

布物性試験：経糸・緯糸密度，厚さ，重量

## 3. 織物試作結果

### 3. 1 製織試験

製織には通常の大島紬用高機を使用し，練り絹糸の試作布を織上げた（図2，3）。

### 3. 2 織物の組織確認

布面を拡大撮影し，組織の状態を観察した。通常の経糸配列である $\alpha$ パターンでは緯糸の合糸本数が多くなるにつれ，緯糸がより表面に現れ縦長の織構造になっている。Bグループでは引揃糸の間に緯糸が1本入るので縦長の傾向がやや緩和している。Cグループでは引揃糸の間に2本の緯糸が入りバランスを保っている（図4）。

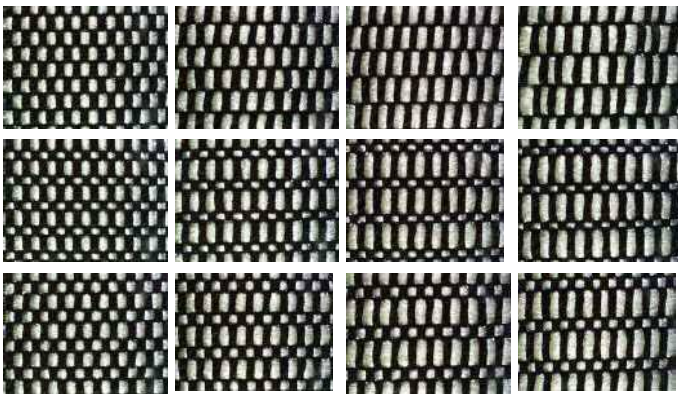
経糸配列 $\beta$ パターンは同じ綜統に2回経糸を通すことにより，経糸を太くする効果が現れたが，緯糸の合糸本数が多くなると経緯のバランスが崩れ斜行することもあり，合糸8本程度が適当なバランスを保っている（図5）。経糸配列 $\gamma$ パターンは同じ綜統に4回経糸を通し，同じ簇羽と一緒に入れ，1羽空ける変則的な方法だが，やや横長の織構造となり，花織等の組み合わせには効果が見込まれる（図6）。



図2 製織試験用の手織機



Aグループ $\alpha$ ：16種類  
図3 試作見本織布例



(4本合糸) (8本合糸) (12本合糸) (16本合糸)  
(上段：同一糸連続織，  
中段：1本織込と引揃糸交互織込，  
下段：2本織込と引揃糸交互織込)

図4 織種類別拡大織布写真（接写倍率7倍）

### 3. 3 布物性試験結果

物性試験結果の一例として同一糸連続織Aグループの各条件別の厚さ比較結果を図7に示す。簇羽に2本入り $\alpha$ と変化パターン $\beta$ では同じような傾向を示し，簇羽に4本入り空き羽有りの $\gamma$ では生地が厚めになる傾向を示している。このことから生地を分厚くするには $\gamma$ の手法が有効であると考えられる。



(4本合糸) (8本合糸) (16本合糸)  
( $\beta \cdot A$ ) (接写倍率7倍)

図5 織種類別拡大織布写真



(4本合糸) (8本合糸) (16本合糸)  
( $\gamma \cdot A$ ) (接写倍率7倍)

図6 織種類別拡大織布写真

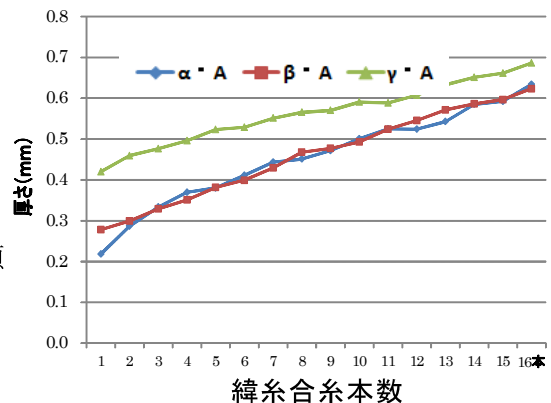


図7 経糸配列条件毎の厚さ比較

## 4. おわりに

従来の大島紬用織素材，手織機で，帯地などの厚地の製織法が開発できた。今後，新たな織物としての利用を提案していきたい。